

# 明石市の 大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ ガイドブック



# はじめに

明石市には、おだやかな瀬戸内海を臨む美しい海岸線をはじめ、ため池群や田園地帯、里山林など豊かな自然が残されており、多様な生物が生息・生育する場となっています。しかしながら、これまで田んぼや水路、ため池などでふつうに見られていたトノサマガエルやミナミメダカなどは、宅地整備や農薬の使用などにより生息に適した環境が少なくなり、目にする機会が減ってきています。

このような状況のなかで、明石市では、2011年に「生物多様性あかし戦略」を定め、「いろいろな生きものが生息・生育するまち“あかし”」を目指し、生物多様性を守る取り組みを進めています。2019年3月には、「明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～」を作成し、277種の生きものを選定しました。

このレッドリストガイドブックには、レッドリストに選定した277種の貴重な野生生物の情報を掲載しています。明石市ではどのような生きものが減ってきているのか、また多くの人がからす都会でありながら、意外と多くの生きものたちが身近にいること、そんな生きものたちが生きる自然について、ぜひ皆様に知っていただければと思います。

そして、この大切にしたい生きものや自然を将来世代に引き継ぐため、多くの方が身の回りの自然に目を向け、環境への負担の少ない生活へと見直していただくなど「人にも自然にも地球にもやさしいまち・あかし」を目指すきっかけになれば幸いです。

2022年（令和4年）3月 明石市

## 目次

明石の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ とは？ .....	1
明石市の環境と生きもの .....	1
明石市レッドリストの生きもの .....	5
哺乳類 .....	5
鳥類 .....	5
爬虫類 .....	10
両生類 .....	10
魚類 .....	11
昆虫類 .....	13
植物 .....	20

### 明石市レッドリストとSDGs

「SDGs」とは、「持続可能な開発目標」のことで、よりよい世界をつくるため、2015年の国連サミットで決められた17の目標です。明石市は、2020年7月17日に「SDGs未来都市」に認定され、2030年のあるべき姿として、「SDGs未来都市・明石～いつまでもすべての人にやさしいまちをみんなで～」を掲げ、SDGsの17の目標を目指しています。「生物多様性あかし戦略」を推進するため、「明石の大切にしたい生きものリスト～明石市レッドリスト～」をつくり、明石市の自然や生きものを守っていこうとする取り組みは、17の目標のうち、主に「14海の豊かさを守ろう」「15陸の豊かさを守ろう」に貢献するものです。



### 写真提供

- エコウイングあかし：小川 雅弘、森 逸男
  - 日本蜂類同好会西日本八チ研究会：福島 秀毅
  - 日本野鳥の会ひょうご：伊賀 文計、岩崎 健二、尾崎 由紀、尾崎 雄二
  - 兵庫県植物誌研究会：小林 禧樹
  - 兵庫県立大学・兵庫県立人と自然の博物館：黒田 有寿茂
  - 兵庫県立人と自然の博物館：八木 剛
  - 兵庫・水辺ネットワーク：大嶋 範行
  - 角野 康郎 ●大城 明夫 ●小野 由紀子 ●中村 和磨
  - (株)地域環境計画：飯田 一令、石山 麻子、上田 達也、上村 晋平、熊走 彰記、桑田 莉奈、中島 拓、前田 武志、松井 敬子、見瀬 浩子、村島 祐希、米田 和典
- ※一部写真を明石市立文化博物館発行『明石の野鳥』『明石の昆虫』より転載使用。  
※撮影地が明石市外である写真が含まれる。

# 明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ とは？

「明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～」は、明石市にいる生きもののうち、すみか<sup>すみか</sup>がなくなったり数が減<sup>へ</sup>ったりして、このままでは明石市からいなくなってしまうかもしれない種<sup>しゅ</sup>、または前に明石市にいましたが、今は見られなくなっている種<sup>しゅ</sup>をリストにしたものです。

どのような生きものがどれくらい減<sup>へ</sup>っているのかがわかるよう、リストの生きものは次の4つのカテゴリーに分けています。

カテゴリー	説明
A	とくに減 <sup>へ</sup> っている種。明石市で数が特に少ない種、または生息・生育環境 <sup>かんきょう</sup> が悪くなっていて、その環境を守らなければならない種。
B	減 <sup>へ</sup> っている種。明石市で数が少ない種、減 <sup>へ</sup> ってきている種、またはよい自然環境 <sup>しぜん</sup> の目安になる種で、その環境を守りたい種。
要調査	情報が十分になく判断 <sup>はんだん</sup> が難しい種。
今見られない	明石市に前にはいたが、今は見られない種。

※説明はやさしい文章に書きかえています。またカテゴリーの順序を入れかえています。正式な定義、順序は明石市ホームページをごらんください。

明石市でこれまでに  
見つかった生きものの  
11%にあたる277種が  
選ばれています。



分類群	A	B	要調査	今見られない	合計
哺乳類	2	3			5
鳥類	11	21	17		49
爬虫類	2	2			4
両生類	4	1			5
魚類	4	12	1		17
昆虫類	9	23	46	3	81
植物	31	59	11	15	116
合計	63	121	75	18	277

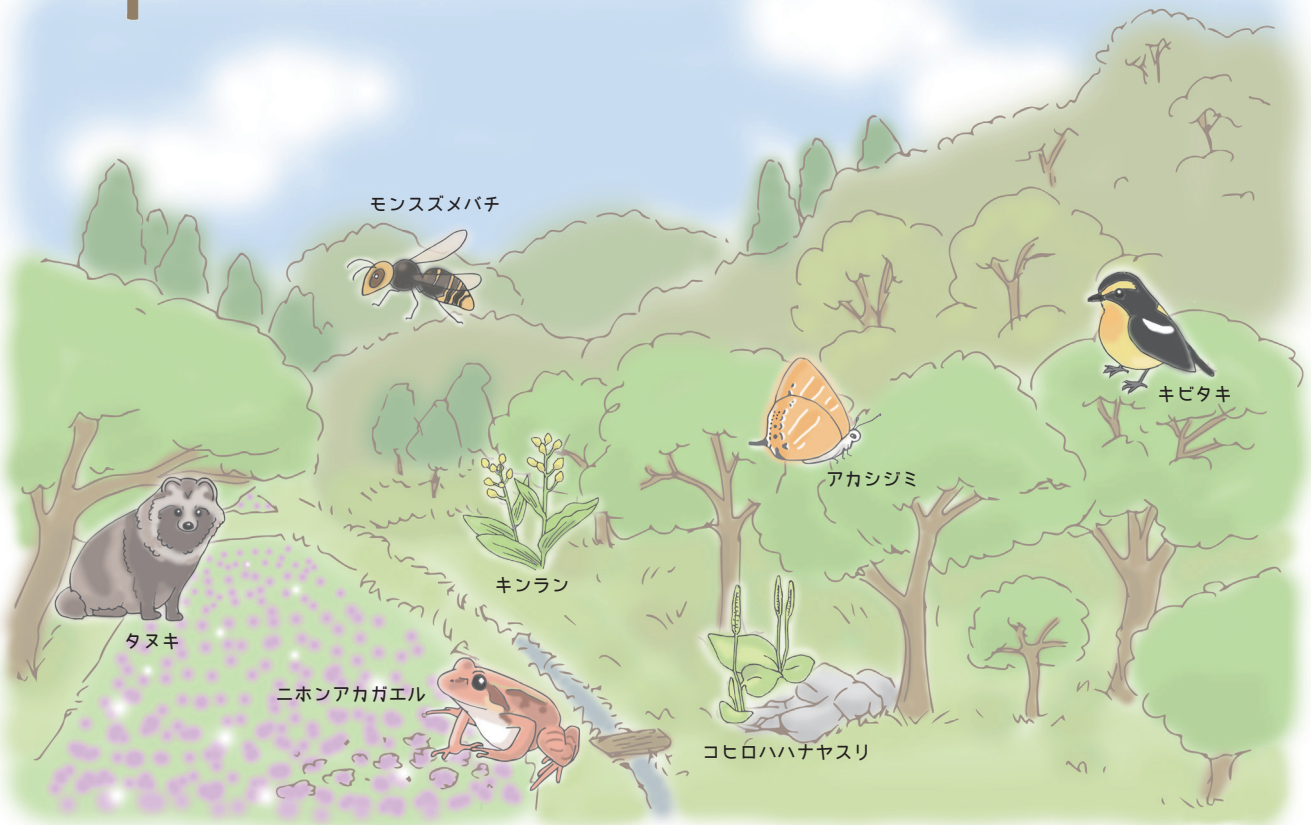
## 明石市の環境と生きもの

たくさんの方がくらす明石市。生きものにとって大切な環境は、どのような場所でしょうか。また、そこにはどのような生きものがいるのでしょうか。



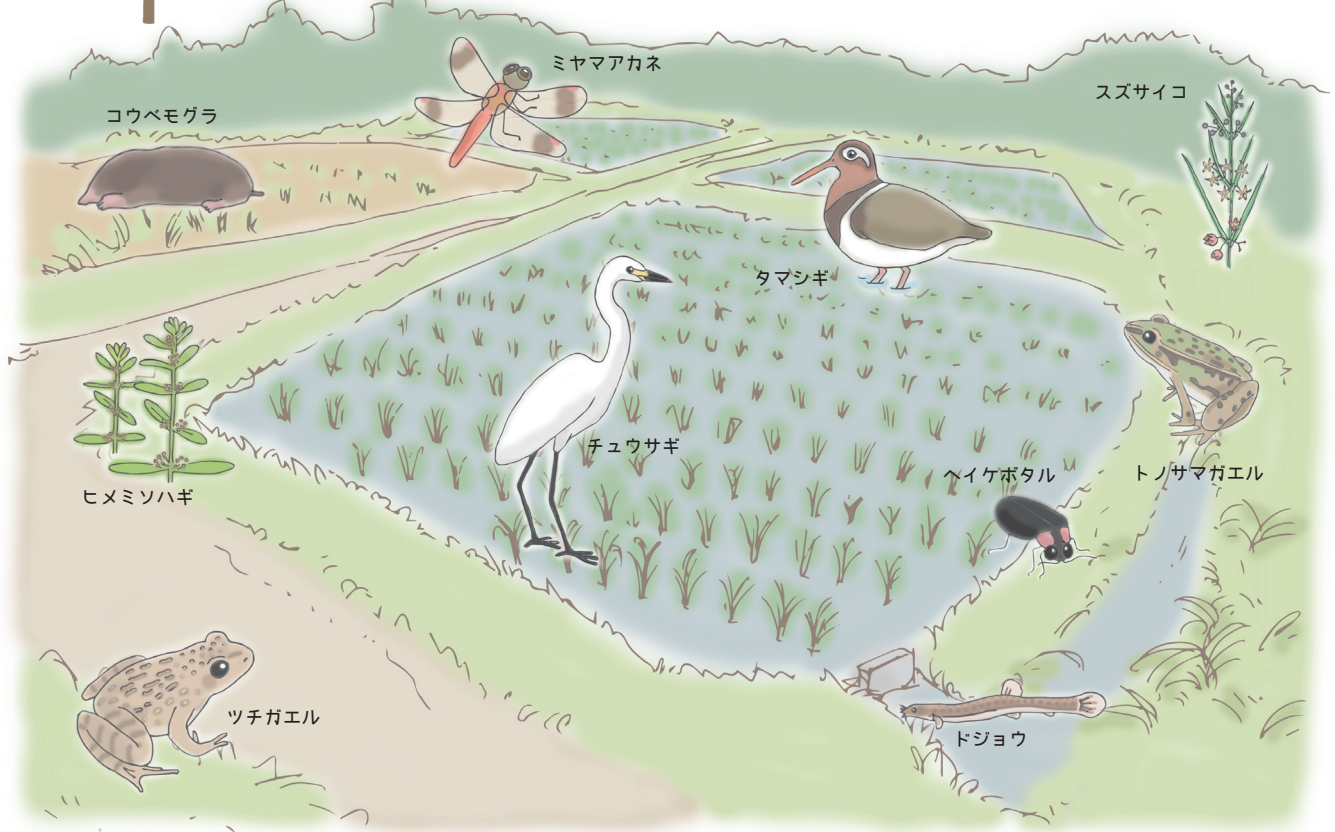
# 里山林

明石市には高い山や広い山地はありませんが、<sup>おおくほまつかげ</sup>大久保町松陰・松陰新田には、まとまった里山林が残されています。里山林は、<sup>じゅりん</sup>樹林にくらす生きものはもちろん、<sup>しゅうへん</sup>周辺のため池・<sup>しつち</sup>湿地や水田と林を行き来して生活する生きものにとっても、<sup>か</sup>欠かせない場所になっています。



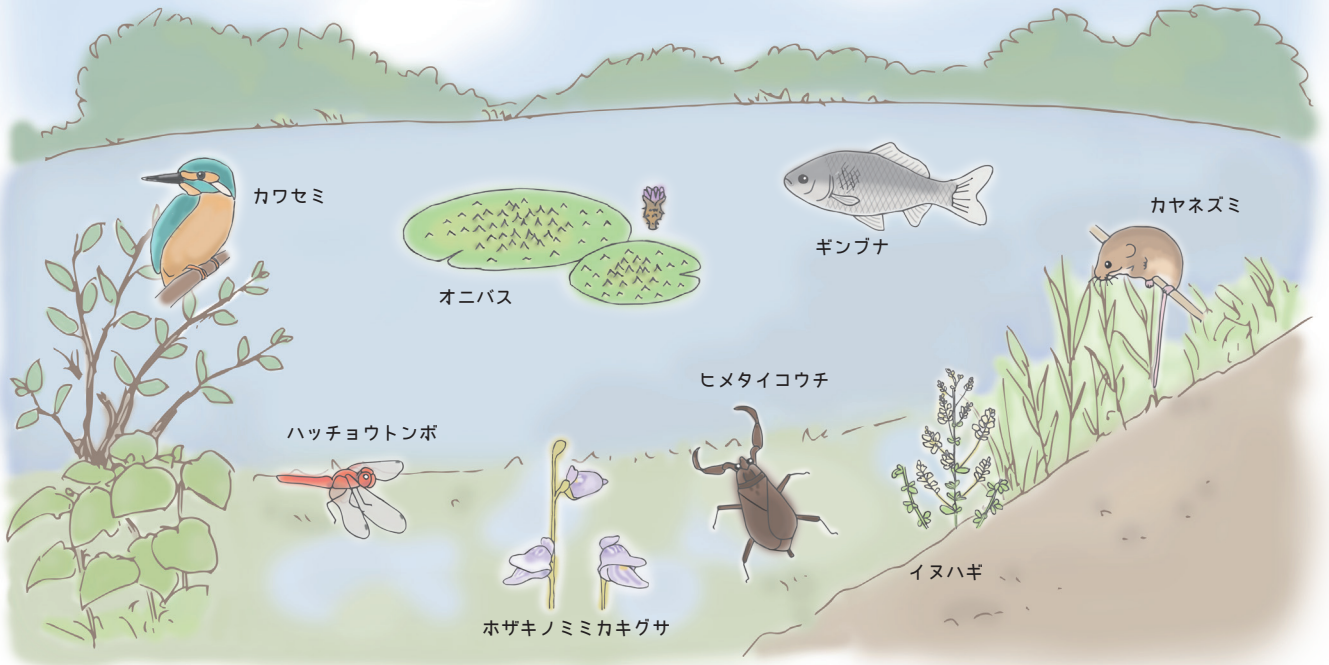
# のうこうち 農耕地

<sup>しがいち</sup>市街地の多い明石市ですが、<sup>ちいき</sup>西部地域には水田や畑などの農耕地が見られます。田んぼにくらすカエルやトンボ、水路にすむメダカやドジョウ、それらを食べる鳥、<sup>あぜ</sup>畦のような明るい草地に生える植物など、農耕地は多くの生きものを育てています。田んぼや畑がなくなると、これらの身近な生きものも姿を消してしまいます。



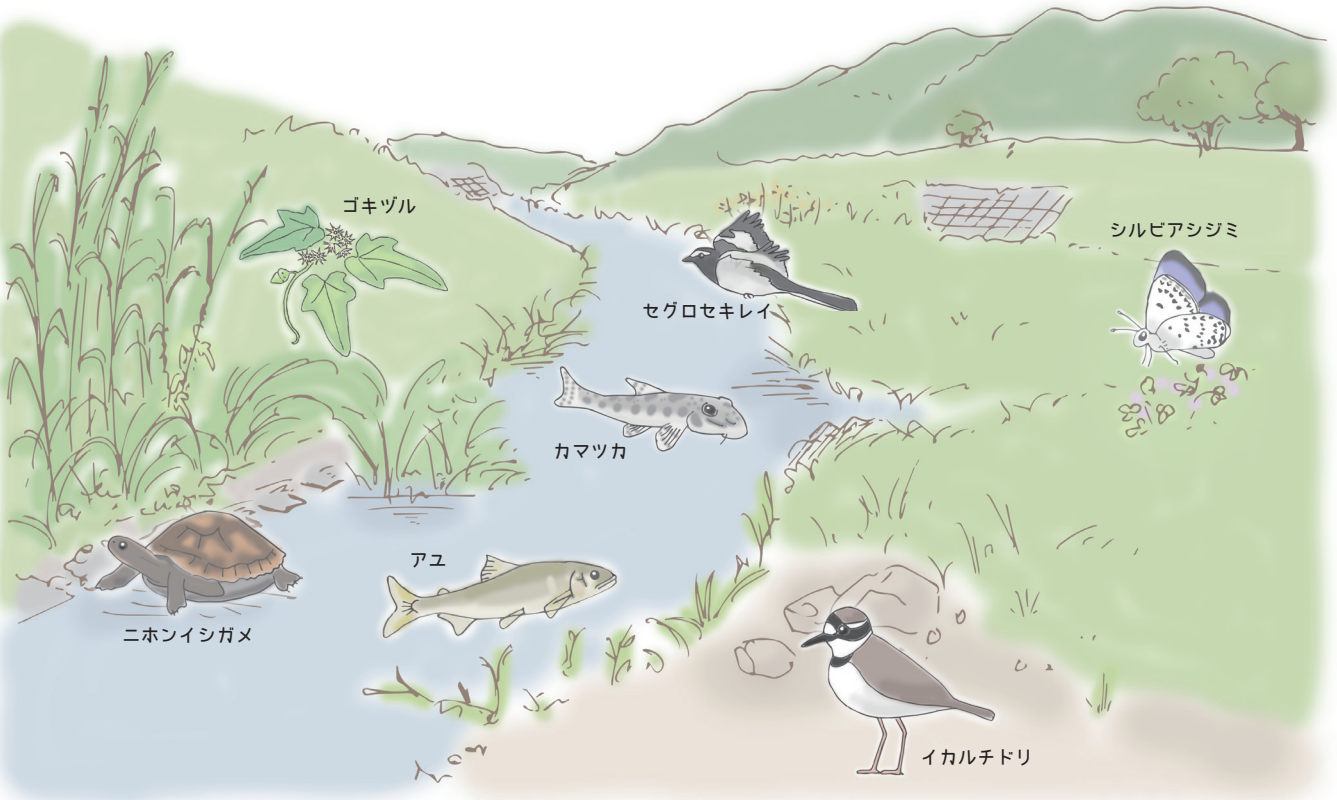
## ため池

昔から水不足に悩まされてきた明石市には、数多くのため池があります。  
 ため池や湿地には、流れのない水の中で生活する昆虫や魚、これをエサに集まる鳥、水草や水辺に生える植物など、たくさんの生きものがくらしています。  
 中には絶滅が心配されるオニバスなどの希少な生きものも見られます。



## か せん 河 川

明石川をはじめとして、朝霧川、谷八木川、赤根川、瀬戸川などの河川が明石市を流れ、瀬戸内海へ注ぎます。水の中にはカマツカなどの魚、石の多い河原にはイカルチドリなどの鳥や虫、河川敷には草地の植物など、川は多くの生きもののすみかであるとともに、生きものが他の場所へ移動するときの通り道としても大切な役割を果たしています。



# 海岸

海に面した明石市は、東の大蔵海岸から西の魚住海岸まで、16kmの長い海岸線を持ちます。海岸の多くは人の手で整備された人工海浜ですが、整備されてから年月が経ち、今ではいろいろな生きものを見ることができます。特に明石川より西では砂浜が多く、いろいろな海浜植物が生育しています。



# 公園

明石市には、明石公園と金ヶ崎公園という大きな公園があります。どちらの公園にも広い林や池があり、市街地が広がる明石市の中で、生きものすみかとして大切な場所になっています。この他にも、街の中の公園やお寺、神社の森には、意外といろいろな生きものがすんでいます。

